

2010.8.7

生誕150年

最後のシンフォニスト マーラー

第2回

プログラム

今年生誕150年に当たるマーラーを特集するシリーズの第2回目です。マーラーの交響曲は歌曲と密接な関係を持っていて、前回聴いて頂いた交響曲第1番は「さすらう若人の歌」、第2番から第4番までは「子供の不思議な角笛」の中からの素材が用いられています。これらは互いが同じ表現意識の中から産まれた双子のような関係といっても良いかも知れません。交響曲第2番「復活」は第1楽章のある主人公の死を葬る葬送行進曲で始まり、第2楽章から第4楽章はいわば間奏曲としての役割を持ち、第5楽章で、死に対する疑問、人生の意味と苦悩についての答えを表現しようとした。この終楽章はドイツの詩人クロプシュトックの「復活」の讃歌が歌われ、独唱、合唱、大管弦楽による壮麗な音楽は正にマーラーの真骨頂と言って良いでしょう。今回は他に、バッハの管弦楽組曲をマーラーが編曲した版がありますので、合わせてお楽しみください。

「珠玉の小品」コーナーはエルガーのヴァイオリン小品を4曲聴いて頂きます。有名な「愛の挨拶」とその姉妹曲とでも言いたい「朝の歌」、この曲とセットで出版された「夜の歌」、第一次大戦の悲痛な思いをうたった「ため息」。どれも美しく、愛らしい「珠玉の小品」と呼ぶにふさわしい作品です。

★珠玉の小品 コーナー

エドワード・エルガー (1857~1934):

夜の歌 *op.15-1* / 朝の歌 *15-2*

ため息 *op.70*

加藤知子(ヴァイオリン) / 江口 玲(ピアノ)

(1997.11.18~20録音 DENON)

愛の挨拶 *op.12*

キヨン・ファ・チヨン(ヴァイオリン) / フィリップ・モル(ピアノ)

(1989.11.5 サントリーホールでのLive)

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第2番ハ短調“復活” ~ 第1楽章、第2楽章、第4楽章

クリスティーナ・ラーキ(ソプラノ) / フローレンス・クイヴァー(アルト)

ガリー・ベルティーニ指揮ケルン管 楽団 / ケルン放送合唱団 / 南ドイツ放送合唱団

(1990.11.25 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第2番ハ短調“復活” ~ 第5楽章

クリスティーナ・ラーキ(ソプラノ) / フローレンス・クイヴァー(アルト)

ガリー・ベルティーニ指揮ケルン管 楽団 / ケルン放送合唱団 / 南ドイツ放送合唱団

(1990.11.25 サントリーホールでのLive)

ヨハン・クリスティアン・バッハ (1685~1750):

クスタフ・マーラー (1860~1911) 編曲:

管弦楽組曲第2番ハ短調 ~ ロンド、パティネリ

管弦楽組曲第3番ニ長調 ~ アリア、ガヴォット

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 / カール・ハインツ・ツェラー(フルート)

(1984.6.15 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)